

### 《上智の精神》

「上智」という名称は、伝統的なカトリックの祈り「聖母マリアの連祷」の中の一句である「上智の座」に由来し、「最上の叡智」を意味しています。

また、校章の鷲は真理の光を目ざして力強くはばたく鷲をかたどったもので、その姿は上智大学の本質と理想とを表わしており、中央にしるされた文字は本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字です。

上智大学は、海外では早くからソフィア・ユニバーシティの名で親しまれてきましたが、このソフィアはギリシャ語のΣΟΦΙΑからとったものであり、それは「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」を意味します。この叡智こそ本学が学生に与えようとする究極のものであり、本学の名称“上智”（SOPHIA）にほかなりません。

私たちは、激動する現代世界に向かって広く窓を開き、人類の希望と苦悩をわかちあい、世界の福祉と創造的進歩に奉仕することを念願します。

### 《教育理念》

上智大学短期大学部は、上智大学の女子教育への関心に応える形で設置されました。

上智短期大学（現上智大学短期大学部）設立準備委員長であり、初代学長として本学の基礎を築いたジェラルド・バリー師は、本学で学ぶ女性たちに時代を越えて以下のように語りかけています。

『上智短期大学の教育は、キリスト教ヒューマニズムに基づいています。その基礎の上に立って、専門分野の徹底した学習を行うばかりでなく、カトリシズムの精神を生かした人間形成を目指し、豊かな教養と円満な人格を備えた女性の育成を第一の目標とします。

また、姉妹校上智大学と同様、東西文化をつなぐ役割を第二の目標としています。そのため本学も国際性あふれた教授陣を用意しており、学生は、この雰囲気の中で、おのずから広い視野と国際感覚を身につけることができるでしょう。

この二つの目標のほかに、学生は、英語で学びながら、Language Spiritを把握するよう努力することが求められています。その努力を通じて学生ひとりひとりが自己を発見し、人間性をいっそう豊かにすることができるでしょう。』

（出典：昭和47年「新設上智短期大学の案内」）

バリー師の意思を継承した本学の教育は、《上智の精神》に共鳴し実践していく志を涵養するとともに、幅広い知識と多くの人脈、深い愛情と強い信念の陶冶により、この教育理念を実現することのできる女性の育成を目指しています。

## 上智大学短期大学部ディプロマポリシー

上智大学短期大学部は、建学の精神を具現化しうる女性を陶冶し、国際社会の諸問題に対応しうる者を卒業生として輩出していきます。つまり、本学で学業を修めた者は、以下に掲げる知識と教養を備える者であり、その複合的な価値である人間力を備えることにより社会的使命を果たすことができます。

このような教養と知性、人間観を備え、かつ上智大学短期大学部学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を科目群毎に修得した者に対し、本学は短期大学士（英語）の学位を授与します。

- (1) 豊かな人間観をもって「人間の尊厳」を実現できること  
「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」の精神を实践する志向を持ち、さらに個々人の多様性を尊重しうる豊かな人間性を備えることができます。
- (2) 多文化共生の社会形成を担うことができる国際対応力を備えること  
国際社会への関心を持ち、さらに言語的・文化的・社会的な多様性を俯瞰し、肯定的に理解することで、社会の諸問題に対応するための力 (Global Competency) を持つことができます。
- (3) 人や社会の懸け橋となり、信頼関係を自ら構築できること  
異なる価値観や背景を持つ他者と信頼関係を築き、東西文化の繋ぎ手となることができます。
- (4) 当事者として社会に貢献する意志を備え、責任を伴う決断と実行を行うことができること  
自らが主体となって人材を繋ぎ、社会の諸問題や目標に挑戦しつづけることができるようになります。
- (5) 事象を批判的に検証し、本質的な課題を発見できること  
物事を体系的に整理し、多角的に考察することで、潜在的な事実から物事の本質を見出すことができます。
- (6) 学際的な論理考察から、新たな価値を創造することができること  
様々な分野の知識や既知の事実を、独自の視点をもって複合的に組み合わせることで新たな概念に意義を創り出すことができます。
- (7) 自己学習推進力を育みつづけることができること  
現状に満足することなく、自ら自己形成の課題を設定し挑戦しつづけることのできる意欲を生涯にわたって持ち続けることができます。

## 上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー

### 1. 人材育成方針

上智大学短期大学部英語科では、異なる文化や思想をもつ世界中の人々と信頼関係を構築できる実践的な英語能力と、言語の背景にある文化や歴史を複合的に考察することのできる教養力と専門力を身につけることにより多文化共生の理念を实践できる人材を育成します。つまり、本科の修了者は、以下に掲げる教養力と専門力、そして言語力を備えるものです。

- (1) キリスト教ヒューマニズム精神に共鳴し自らが実践できること（献身の精神）  
キリスト教の倫理や哲学の視座に基づき世界を考察することができます。また、その精神の根底に流れる他者愛に共感し実践することができます。
- (2) 地球市民としての人格が形成されていること（アイデンティティ・自己形成）  
国際的な事象に強い関心と理解していく志向をもち、国際社会の構成員としての視野と自らの強い意志をもつことができます。

- (3) 幅広い専門知識を探究する術と意欲を備え実践すること（知識志向）  
分野横断的に学問を探究し続けるための方法と志向を持ち、継続的に知識を探究していくことができます。
- (4) 英語を実践的に運用し、他者とのコミュニケーションができること（英語技能、人間関係の構築）  
英語を実践的に運用するための4技能（読む・書く・聞く・話す）を身につけることができます。また、自己の考えを論理的に発信し、他者との豊かな人間関係を構築することができます。
- (5) 英語圏と日本の文化を比較検証し、多様性から価値を見出すことができること（文化の比較検証）  
英語と英語圏の歴史や文化、社会事象を理解し、それらの文化圏と日本との関係を考察するための広い文化的視野をもち、さらに独自性の中から共通性を見出すための視点や方法を修得し、それを応用することで、社会改善に努めることができます。
- (6) 国際的な視点で社会を理解するとともに、様々な背景を持つ人や社会との相互理解の担い手となることができること（多文化共生の実践）  
世界の多様な事象を多面的に理解し考察することを通して国際理解を深め、多文化共生社会の実現に貢献することができます。

## 2. 学修の4つの観点と到達目標

上智大学短期大学部英語科を修了した者は、専修分野である英語の学修と幅広い知識の修得を通して多文化共生の国際社会に貢献しうる人材として、4つの観点から以下に掲げる素養と能力を持つことができます。

- (1) 関心・意欲・態度
- ① 「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」のキリスト教ヒューマニズム精神の視座に基づく社会貢献の志を抱くことができます。
  - ② 自身の周辺に留まらず世界や地域の諸課題に自ら主体となって挑み続けることができます。
  - ③ 国際的な多様性に対する理解と共感をもつことができます。
  - ④ 英語の学びを通して得られる新たな知識や経験、出会い等による自己成長に気づき、自らの喜びとしていくことができます。
- (2) 思考・判断
- ① 国際社会や身近な地域にある国際性への気づきと推察ができます。
  - ② 日本および英語圏の社会の諸問題について多様な情報を収集し、それらを総合的に判断して国際社会の問題発見と解決の方策を探究することができます。
- (3) 技能・表現
- ① 英語学修を通して、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）を総合的に運用することができます。
  - ② 英語で表現された資料を読み、聞き、内容を理解し、資料を的確に収集し分析、思考し、英語による多様な自己発信、自己表現、人間関係の構築ができます。
  - ③ 英語を用いて論説文 (essay) や論文 (academic paper) を作成し、それを通して論理的思考にもとづいた表現ができます。
- (4) 知識・理解
- ① 英語圏の歴史や文化、社会事象を理解し、それらの文化圏と日本との関係を比較考察する国際的視野を持つことができます。
  - ② 英語および日本語を通して幅広い専門知識と教養を備えていることができます。
  - ③ 多様な分野を修得し、得られた知識や経験を自らの視座を持って横断的に組み合わせ、独自の提言や考察ができるようになります。